

令和4年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	公益財団法人千葉県文化振興財団	
施 設 名	千葉県文化会館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	25,707	(千円)
	公 演 事 業	9,258 (千円)
	人 材 養 成 事 業	12,605 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,844 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	開館55周年記念 千葉県 少年少女オーケストラ第 27回定期演奏会	令和5年3月26日	指揮：辻博之 音楽監督：佐治薫子	目標値	1,300
		大ホール		実績値	1,555
2	開館55周年記念 千葉県 少年少女オーケストラと アキラさんの大発見コン サート2022千葉公演	令和4年7月17日	指揮・お話：宮川彬良 音楽監督：佐治薫子	目標値	1,300
		大ホール		実績値	1,042※
3	千葉県少年少女オーケス トラとアキラさんの大発 見コンサート2022南総公 演	令和4年7月16日	指揮・お話：宮川彬良 音楽監督：佐治薫子	目標値	800
		千葉県南総文化ホール 大ホール		実績値	514※
4	開館55周年記念 森麻季 & 錦織健デュオリサイタル (クラシックセレクシ ョン〈リサイタル〉)	令和4年11月13日	出演：森麻季(ソプラノ) 錦織健(テノール) 山岸茂人(ピアノ)	目標値	1,000
		大ホール		実績値	1,002
5	開館55周年記念 レ・ヴ ァン・フランセ コンサー ト(クラシックセレクシ ョン〈室内楽〉)	令和5年3月5日	出演：レ・ヴァン・フランセ	目標値	1,100
		大ホール		実績値	1,140
6	4館連携&オール千葉連携 事業 クァルテット・エク セルシオ コンサート(四 街道市)	令和4年8月21日	出演：クァルテット・エクセルシオ	目標値	550
		四街道文化センター		実績値	330※
7	4館連携&オール千葉連携 事業 うみのひファミリ ーコンサート邦楽四重奏 団 in 佐倉	令和4年7月18日	出演：邦楽四重奏団	目標値	400
		佐倉市民音楽ホール		実績値	240※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## (2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	千葉県少年少女オーケストラ育成事業	令和4年4月～ 令和5年3月	音楽監督：佐治薫子	目標値	160
		練習室・大ホール		実績値	160
2	第35回若い芽のαコンサート	令和4年6月26日	出演：山下一史（指揮） 石田滉（メゾソプラノ） 浦畑尚吾（クラリネット） 平野友葵（ヴァイオリン）	目標値	1,700
		大ホール		実績値	1,437※
3	伝統芸能スコラ 2022	令和4年8月20日	出演：鳳聲晴久（笛）ほか	目標値	160
		青葉の森公園 芸術文化ホール		実績値	66

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	4館&オール千葉連携事業 おやこdeオペラ「まじっく・ふるうと」～0歳でもOK!みんなが、楽しめる歌芝居～	令和4年7月3日～ 令和4年9月11日	出演：二期会 BLOC 千葉	目標値	1,520
		小ホール ほか		実績値	905※
2	4館&オール千葉連携事業 いっしょにオペラ～幼稚園児・保育園児対象～【アウトリーチ】	令和4年6月～7月	出演：二期会 BLOC 千葉	目標値	400
		県内幼稚園・こども園		実績値	684
3	オーケストラとあそぼう【アウトリーチ】	令和4年11月～ 令和5年2月	出演：辻博之（ピアノ）ほか	目標値	3,600
		県内幼稚園・こども園		実績値	1,637
4	わがっきとあそぼう！～イヨーポン！わ！楽しいね！～【アウトリーチ】	令和4年11月～ 令和5年2月	出演：望月太左乃（邦楽囃子方）ほか	目標値	320
		県内幼稚園・こども園		実績値	313
5	オール千葉連携事業 洋楽四重奏団&邦楽四重奏団による県内アウトリーチ【アウトリーチ】	令和4年10月～12月	出演：クアルテット・エクセルシオ 邦楽四重奏団 Banquet Brass	目標値	200
		海ほたる、県内中学校 ほか		実績値	1,172

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
<p>1. 事業計画の組み立て方</p> <p>（ミッション、ビジョン、地域特性・ニーズ、施設の強み・特色と各事業の連関について）</p> <p>当劇場は、千葉県の条例に基づく「福祉向上」や「文化の発展」に資することを目的として設立され、「文化資源の活用」「新たな文化を掘り起こす」ことによって「千葉県に対する愛着や誇りを育み、活力に満ちた地域社会の形成に貢献する。」ことを目指している。</p> <p>ミッション・ビジョンについては、令和3年度から指定管理期間（5年間）を見据えて再構築した。</p> <p><u>ミッション：ちばの強みを生かした新しい「ちば文化」の創造</u></p> <p><u>ビジョン：「魅せる」「創造する」「広げる」劇場によって千葉県を元気にする</u></p> <p>特に心血を注いでいる鑑賞機会の格差解消・文化芸術の担い手不足に焦点を当て、地域特性・ニーズを導きの糸として設定した4つの戦略に基づき、開館55周年記念に位置付けたラインナップを揃え事業展開を図った。</p> <p>ニーズ1：「新たな文化芸術の担い手となる子ども・若者が文化芸術にふれる機会を創出する」</p> <p>2：「特に、子ども・若者が『伝統芸能』に触れる機会を創出する」</p> <p>3：「公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実」</p> <p>4：「鑑賞機会の格差解消」（地域、障害の有無、年齢等に関わらず）</p> <p>4つの戦略</p> <p>1：千葉県の文化振興を担う若者及び専門人材の育成 公演1, 2, 3、人材養成1, 2, 3</p> <p>2：各種団体との連携・協働 公演6, 7、普及啓発1, 2, 3, 4, 5</p> <p>3：県内の貴重な文化資源の活用と継承 公演7、人材養成3、普及啓発4, 5</p> <p>4：千葉県立文化会館を千葉県の文化振興の拠点として活用 公演3, 4, 5, 6, 7、普及啓発1, 2, 3</p>
<p>2. 当初の予定通りに事業が進められたか</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・助成対象事業は合計15事業で、上述のニーズを踏まえ、地域、障害の有無、年齢等に関わらず鑑賞機会を充実させることを念頭に「公演事業」を7事業、青少年の育成、文化芸術の担い手不足という地域社会課題の解決に挑む「人材養成事業」を3事業、様々な年代の方が文化芸術を体験・参加するきっかけとなるような機会を創出し、文化活動の裾野の拡大を目指す「普及啓発事業」を5事業実施した。</li><li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、一部幼稚園のアウトリーチ事業など計画変更を余儀なくされたものの、時期や内容によって座席数制限などの感染症対策、練習方法の工夫など、安心・安全のための様々な措置を行い、全ての助成対象事業15事業を実施。予定通り事業が進められた。</li></ul>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<ul style="list-style-type: none"><li>・ニーズ4の根拠となった千葉県が実施したアンケートによると、「文化施設に足を運ばない理由」の第1位は、「仕事・育児・介護など忙しく鑑賞に出かける時間がない」であった。「ライフスタイル」に合わせた事業が必要であるという観点から、「0歳でも参加できる」公演を洋楽と邦楽の四重奏団「クアルテット・エクセルシオ」、「邦楽四重奏団」と、鳳聲晴久氏と「伝統芸能スコラ」を新制作。定番となっている「おやこdeオペラ」は「市町の文化施設」が抱える「予算確保、職員・ノウハウの不足」などの課題解決に向け、県内各地域で展開した。財団が蓄積してきた運営の経験や舞台技術のノウハウを他の劇場や文化団体・県民に還元した。地域文化の底上げが行われ、地域施設発となる事業の水準が回を追うごとに高まるなど波及効果のループを形成している。</li><li>・「音の響きが良い」という劇場の特性を生かして音楽を中心とした事業群を組み立てつつ、特定の分野に偏ることなく、子供たちが文化芸術に親しむための多様なチャンネルを設け、次世代への文化芸術の「創造・発展・継承」を目指した「人づくり」を行っている。以上のことから「文化的意義」が認められる。</li><li>・全県域を網羅した文化振興への取り組みとして令和3年度から「千葉県立文化会館4館連携事業」をスタート。令和4年度は洋楽・邦楽の四重奏団をはじめオリジナル企画制作。クラシック音楽、邦楽、歌舞伎（お囃子）の公演を県立文化施設4館や市のホールで巡回させることによって、伝統芸能の新たな魅力発見を促し、あらゆる人々が文化芸術に触れ、鑑賞する機会の創出（鑑賞機会における地域格差）という諸課題解決の一助となるよう努めたことから「社会的意義」が認められる。</li></ul>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### 1. 目標・指標設定の考え方

千葉県が実施したアンケート「県が抱えている課題」（鑑賞機会の格差解消、文化芸術団体の担い手不足）と「ニーズ」（子供たちが文化芸術に親しむ機会の充実）をベースに組み立てた当館の企画を、当該補助金メニューの「公演事業」「人材養成事業」「普及啓発事業」に割り当てて計画を立て下記の目標を設定した。

なお、公演事業と普及啓発事業は右図の戦略を立てているため、目標を同一に設定。

##### (1) 公演事業と(3) 普及啓発事業

【目標1】 県民に優れた舞台芸術を提供 満足度のさらなる向上を目指す。

(公演1~7) (普及1~5)

【目標2】 子ども・若者が鑑賞する公演の充実。特に30代以下の鑑賞者増加を目指す。(公演4~7) (普及1~4)

【目標3】 子ども・若者が伝統芸能に触れる公演を創る。(公演7) (普及4,5)

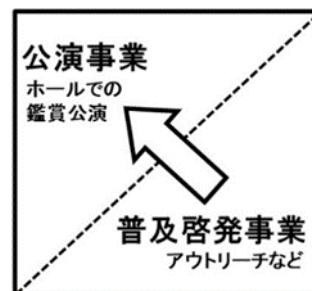
【目標4】 障がい者の鑑賞機会を拡大、配信等による施設に足を運べない方への方策充実。(公演1~7)

##### (2) 人材養成事業

【目標1】 〈担い手育成〉千葉県少年少女オーケストラの育成強化(事業番号1)

【目標2】 〈専門人材の育成〉実演芸術家の継続的支援(「若い芽のαコンサート」出演者) (事業番号2)

【目標3】 〈担い手育成〉伝統芸能に興味を持つ子どもの増加(事業番号3)



#### 2. 指標の達成度

##### (1) 公演事業と(3) 普及啓発事業

【目標1】 に対して設定した【指標1】はアンケートの満足度90%を達成した。公演事業に設定した【指標2】は、事業番号1,4,5において108.7%を達成。(座席数制限を設けた事業を除く)

【目標2】 に対して設定した【指標3】は、従来のアンダー30の平均入場率7%を上回り17.2%を達成。

普及啓発事業に設定した【指標2】は、子ども・若者が鑑賞する公演を40公演実施した。

【目標3】 は、公演事業については、オリジナルで制作した「うみのひファミリーコンサート」において、野川美穂子伝統芸能分野アドバイザー(【その他指標：専門家評価】)から「聴衆の和やかな雰囲気や、特に小さいお子さんや外国の方の集中している様子から、手ごたえを感じ、メンバーと制作が一緒にコンサートをつくりあげることができたと安心しました。」という評価をいただいた。また普及啓発事業については「とにかく『楽しい』オリジナル作品の制作にこだわり、裾野の拡大を目指し2公演を新たに制作した。

【目標4】 障がい者の鑑賞機会を拡大、配信等による施設に足を運べない方への方策充実(公演1~7)

音声ガイド付きちらし、切り欠き加工を行い目の不自由な方でも音声コードの場所が分かるように工夫。

これらを対象事業に100%採用した。

##### (2) 人材養成事業

〈担い手育成〉千葉県少年少女オーケストラの育成強化(事業番号1)

・年間100回以上の練習を維持し、特に助成金によって一流のトレーナー陣を配し(18名のレギュラートレーナー、期間限定を併せると30名以上)、きめ細かい指導を行い、サウンドに磨きをかけた。

〈専門人材の育成〉実演芸術家の継続的支援(「若い芽のαコンサート」出演者) (事業番号2)

・リサイタルからアウトリーチまで、若い(だけでなく中堅の支援こそ大切と考える)アーティストとともに4本の企画制作(チェロ&トランペットコンサートなど)を行い、継続的な出演機会を提供し育成を行った。

〈担い手育成〉伝統芸能に興味を持つ子どもの増加(事業番号3)

・囃子方として活躍する出演者による解説、囃子方の演奏や楽器の体験なども、来場者からは「専門家からの切り口でおもしろい」「お囃子の魅力がたくさんあって楽しめた」と好評を博した。

○「新たな文化芸術の担い手となる子ども・若者が文化芸術にふれる機会を創出する」、「県内あらゆる地域における鑑賞機会の拡大」というという目的で、「0歳児も入場可能」とする公演も制作。「仕事・育児・介護など忙しく鑑賞に出かける時間がない」という声にも応え、『普及啓発事業』で創客の種をまき、やがて『公演事業』に運んでいただけのストーリー」によって展開した。「2(1)地域の特性・ニーズ等」で述べた「4つのニーズ」を踏まえつつ、新たに伝統芸能もラインナップに取り入れ展開し、設定した目標を達成した。千葉県文化会館を中心とした「4館連携」、「オール千葉連携」(財団ネットワーク協議会、市町文化会館等)によって事業を推進しました。以上のことから、「目標」をほぼ達成したと考える。今後は、単年度で目標達成度を測定する「指標」について、より一層目標と関連し、具体的な内容を設定したい。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

##### (1)「公演事業」

・事業番号1,2,3は「千葉県少年少女オーケストラ」の公演で、8月に実施した2コンサートは、コロナの影響を受け、座席数制限を設けざるを得なかったが、1年間の活動の集大成である3月の定期公演は、フルキャパで広報・宣伝から実施に至るまで計画通り進み、券売についても堅調で予定どおり開催することができた。事業番号4,5,6,7は、前期の一部の公演はコロナの影響を鑑みて、座席数制限を設けたが、広報・宣伝から実施に至るまで当初の予定通り進捗した。

##### (2)「人材養成事業」

・事業番号1の千葉県少年少女オーケストラの育成は、コロナ禍の逆境の中でも令和2年の8月以降から、練習や演奏会を中止することなく活動を続けている。年間を通じた活動によって、ジュニアの文化活動復興に正面から向き合った。事業番号2「若い芽のαコンサート」は、県民の日(6月15日)にちなむ公演で、千葉県出身、在住などの若手演奏家がプロオケの千葉交響楽団と共演する育成公演である。開催日を変更することなく計画どおり実施した。事業番号3は、将来の伝統芸能の担い手育成を目的とした新企画で、歌舞伎をテーマとした公演。子ども達は太鼓や鼓のワークショップにも参加。

##### (3)「普及啓発事業」

・事業番号1,2は0歳児も入場可の「オペラ鑑賞体験」の一体企画でコロナの影響を受け、一部訪問公演の中止を余儀なくされた。事業番号3,4,5は県内全域で展開するアウトリーチで、「オーケストラ」「伝統芸能」公演を19か所で実施。また新企画である「観光地や県内の文化資産、学校を訪問する」公演は、日程調整をしつつほぼ全て実施。

以上、事業期間が適切で、ほぼ計画通り進んだと考える。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### 1. 事業費

「収支決算」(要望時と実績報告時における助成対象経費を比較)

##### 公演事業

事業費 No	公演 1	公演 2	公演 3	公演 4	公演 5	公演 6	公演 7
事業名	オケ定期	オケ千葉	オケ南総	森&錦織	室内楽	洋楽四重奏	邦楽四重奏
要望→実績	86.3%	54.1%	53.4%	71.8%	90.5%	69.5%	120.3%

##### 人材養成

事業費 No	人材 1	人材 2	人材 3
事業名	オケ育成	若い芽	伝統芸能
要望→実績	80.4%	80.1%	91.6%

概ね収入は自己負担(指定管理料:指定管理期間5年間定額)並びに入場料・参加料収入から成っている。

##### 普及啓発

事業費 No	普及 1	普及 2	普及 3	普及 4	普及 5
事業名	おやこオペラ	いっしょ	オケあそ	わがつき	アウトリーチ
要望→実績	83.7%	19.0%	66.7%	64.3%	82.7%

・特に上半期に実施した事業は、コロナ禍の影響を大きく受け、演出の制限、ワークショップやアウトリーチの中止を余儀なくされたケースもあり、要望時に比して対象経費が減少した事業が見られる。(公演2,3普及2)

#### 2. 入場者・参加者

・入場者数、参加者数については、上半期に実施した事業はコロナ禍の影響を受けた。一方下半期の公演はほぼ目標どおりの水準に達した。特に中学校対象の伝統芸能のアウトリーチ(普及5)は、予想を上回る希望があり、目標数値の6倍を達成した。

以上、収支決算、入場者数・参加者は要望時に比して幾つかバラつきが見られたが、コロナ禍を考慮にいれば、概ね当初の計画通り進んだ。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

令和4年度は、開館55周年の節目の年であり、助成対象事業を筆頭に年間を通じて記念事業を開催した。令和5年4月から大規模改修に入る当劇場が、これまでの歩みを振り返るとともに、これからの未来を意識した多彩なラインナップを並べ、鑑賞機会の充実を図り、県民の文化芸術活動の動機付けと文化芸術による多様な自己表現に触れる機会を創出した。

#### 1. 機能を最大限に発揮するための資源

(1) 劇場を象徴する人物、鍵となる人物（キーパーソン）の存在（舞台芸術に関する責任者等の役割）

・音楽監督（長い間小・中学校で音楽の教師を務め、合奏のコンクールで優秀な成績を収めてきた）が結成以来27年間「千葉県青少年オーケストラ」を牽引している。「文化振興」と「青少年の育成」という目的のもと、最高の演奏を聴衆に届けるために、上級生は下級生のお手本になるための研鑽、下級生は上級生の演奏を聴き「良い音」を学ぶ、人間形成をも含め、この輪と和によって伝統のサウンドを継承してきている。

(2) 専属団体、フランチャイズ団体、提携団体の存在

・ジュニアオケは、1996年に都道府県レベルでは全国初となる青少年オーケストラとして結成。県内在住または通学する10歳から20歳まで160名の団員が「良い音で、良い演奏を」をモットーにコロナ禍でも音楽監督・スタッフ、トレーナーが感染防止対策に万全を期して練習、演奏活動を続けている。

楽団は、県内はもとよりサントリーホールや、アメリカ、ドイツ、ブルガリア、韓国などでも演奏を行い、広く発信を続けている。令和4年度は2本の公演を実施した。

・当劇場を拠点とし「おらがまちのオーケストラ」を掲げるプロオーケストラ「千葉交響楽団」とは様々な事業（ジュニアオケ、若い芽のαコンサート）において連携を推進している。

#### 2. 機能を最大限発揮する事業として優れているか

(1) 千葉県青少年オーケストラの活動

音楽監督を中心に活動を行い、年間を通じて練習を中断することなく継続して活動できたことで、学校の枠を超えた環境の中、幅広い年齢の仲間とともに優れた指導者や世界的な共演者のもとで学ぶことによって演奏技術だけではなく人としても成長した。子どもたちは自信を取り戻した。

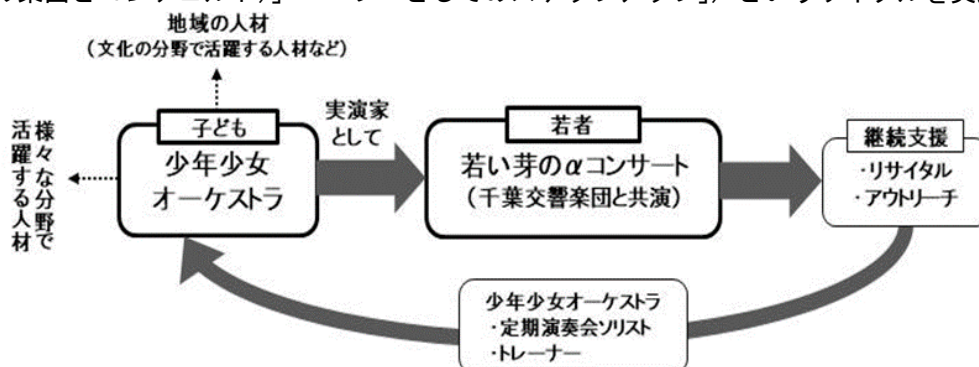
団員は、その貴重な経験は、学校での生活や部活動を通して団員以外の子どもや若者の意識や演奏技術の向上につながると考える。卒団生が指導者となり後輩の指導に当たることや演奏家として活躍することで、学びの継承や音楽活動のよりよい循環など様々な波及効果もたらされている。

1年間の集大成である3月26日の定期公演では、ソリスト神尾真由子さんのSNSでも「演奏の優秀さと『礼儀正しさ』」についてお褒めの言葉をいただくなど、演奏技術のクオリティを高め、人材養成事業としての結果を残すことができた。

(2) 「人材養成事業」における「『循環』による人材育成」

千葉県の文化振興を担う若者及び専門人材の育成については、例えば下図（音楽分野の例）にみられるように人（子どもから大人までいつまでも途切れることなく）が「循環」しながら成長していくイメージで人材養成を行っている。

今年度の成果としては青少年オーケストラ0B（ホルン奏者）が国内のコンクールで上位入賞し、令和5年度の「若い芽のαコンサート」に出演（R5.7/15）。（青少年オーケストラ→国内外のコンクール受賞→「若い芽（プロの楽団とコンチェルト）」→「プロとしてのステップアップ）」というサイクルを実践している。



・以上のことから、地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であったと認められる。



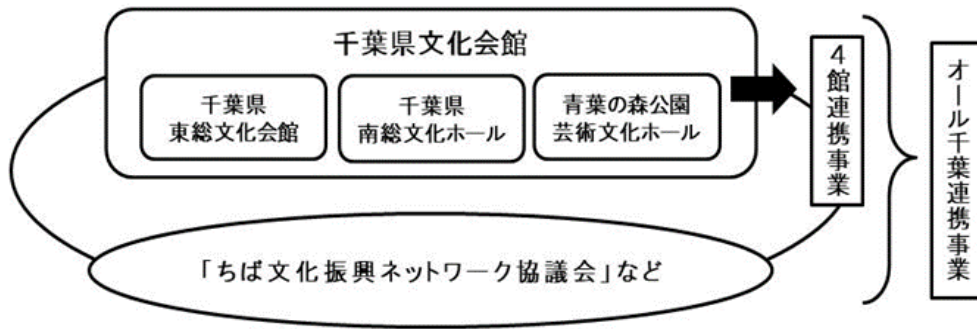
## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

### 具体的な事象

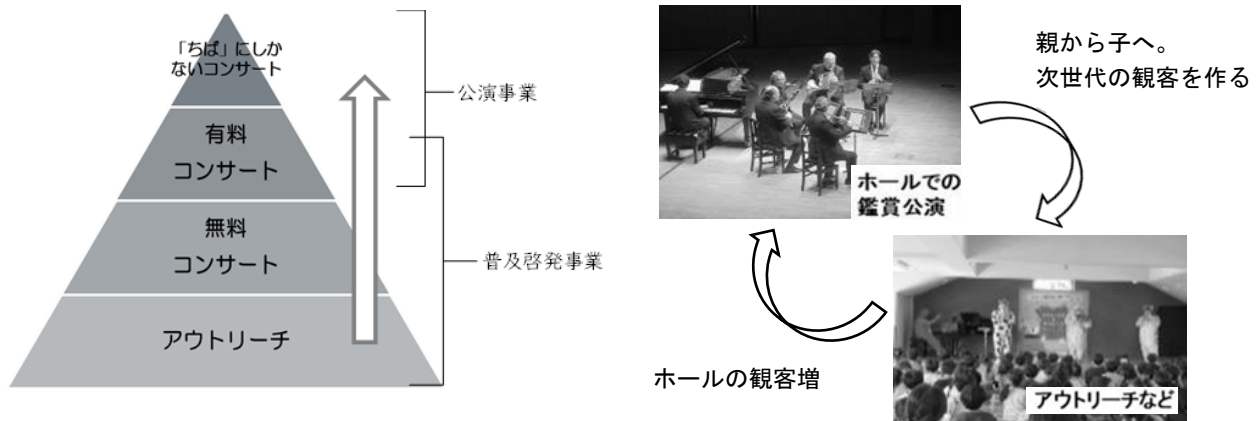
#### 1. 「公演事業」と「普及啓発事業」における「4館連携&オール千葉連携事業」

当劇場が中心となって仕掛ける「4館連携」、「オール千葉連携」として事業を推進。例えば県内6か所を巡回した「おやこ de オペラ」（普及啓発事業）は、「(1) 妥当性」で述べたとおり「市町の文化施設には予算確保、職員・ノウハウの不足」などの理由で公演の実施が難しい地域も多いという課題を解決する具体的手法として確率できた。結果、各地域の文化施設からも好評で、次年度も是非連携したいという声もあり、また新たに開催を希望する施設もでてきたことから、文化施設に刺激を与え、県内全体の文化度向上にも貢献できたと考えている。



※県内12の文化振興財団が個々に持つ専門的ノウハウや経験、情報をネットワーク化し、合同で文化事業・広報活動を行い、県全体の文化振興の向上意を図る機関

#### 2. 「公演事業」と「普及啓発事業」の「循環」による鑑賞者増



ほぼ全ての公演に、アンダー30のチケットや高校生以下のワンコイン（500円）チケットを設定。

「0歳から入場可能」とした公演も多く、若い保護者が気兼ねすることなく参加でき、アンケートでは「普段味わうことがなかなかできない和楽器を説明していただきながら聴くことができよかった。子供（1才・3才）と一緒に入場できてよかった。」などの意見を多数いただいた。

#### 3. 千葉県少年少女オーケストラの演奏会

宮川彬良氏を迎えた子どもから大人までが楽しめる「大発見コンサート」を2年間かけて千葉県文化会館と県東部、南部で開催。令和3年度は東総文化会館で演奏を行い南総文化ホールとライブビューイングで繋ぐ公演を実施、令和4年度は会場を入れ替えての開催、という様に「循環」による文化芸術と人の交流を図った。さらに離れた空間で地元少年少女合唱団と共演する演出を取り入れるなど、デジタル技術を駆使した新しい交流に挑んだ。1年間の集大成である「定期演奏会」は、原点回帰とも言える泰西名曲「カルメン組曲」を取り上げ、フルキャパ満席の中で至高のアンサンブルを披露、上述の様にソリストの神尾真由子氏や専門家（元NHK交響楽団幹部など）からも音楽性と技術力が高く評価された。テレビ、ラジオ放送も行い、劇場に足を運べない県民にも音楽を楽しんでもらうことができた。

令和5年度4月から拠点である千葉県文化会館の改修工事という逆境をチャンスに変えての「東京公演」に向けモチベーションを高めている。

以上、地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながったと認められる。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

「今後も組織活動が持続的に発展するか」事業運営、経営戦略、人事戦略、ネットワークの構築の観点から

#### 1. 事業運営

・専門家集団であると同時に、ジョブ・ローテーションによって職員が施設管理や総務の業務、企画・立案の業務、さらには舞台技術業務を経験することによって、総合的な劇場マネジメントの能力を養っていることも強みであるとする。

・「音楽」「演劇」「舞踊」「伝統芸能」の各分野に精通した職員を揃え、舞台関係の有資格者（舞台機構調整技能（音響）や1級照明技術者、1級劇場技術者）も配置して、幅広い分野やジャンルの企画制作を行っている。

#### 2. 経営戦略

・「経営計画書に基づく」安定の経営が来ている。「指定管理料の確約」「高稼働率による利用料金収入増」「協賛金・寄付金の獲得」「広告料・手数料」「県主催事業の受託」といった収入増と経費削減の工夫をしつつ、利用者の安全を第一としたサービスを充実させている。

・利用料収入はほぼコロナ禍以前の状況に回復しつつあるが、公演事業の収入は厳しいものがある。また、特に電気、ガス料金の高騰など想定外の苦難が襲い、予断を許さない状況ではあるが、経営計画に基づく無駄を省きつつ無理のない範囲での効率的な経費節減、光熱水量の使用料節約に努める一方で、収入増加に向けファンドレイジング活動、設置者からの指定管理料、メセナ支援によって、安定した経営基盤の確立に努めた。

また、公益財団法人の優遇税制措置を活かした寄付金の獲得、文化庁や経済産業省といった国や県、民間助成団体などからの助成金の獲得にも取り組んだ。

#### 3. 人事戦略

・「劇場・音楽堂は人材により成り立つ」「一人ひとりが、千葉県の文化振興を担うプロフェッショナルである」という共通認識のもと、人材育成と組織の活性化に特に注力している。OJT、OFFJT 両目からスキルアップを図り職位やキャリアに応じた研修、舞台技術の資格取得、アートマネジメント知識の向上や緊急対応能力の向上にも努めた。これら研修等の実施は55メニュー、参加人数は延べ217名に及んだ。若い職員が増え世代交代が進む中、先輩職員が後輩職員をサポートするメンター制度を本格始動させた。

#### 4. ネットワークの構築

・これまで述べてきた様に、「4館連携事業」「オール千葉連携事業」をはじめ文化施設、博物館、美術館、企業、大学などとは強固なネットワークを構築している。

・公益財団法人日本音楽財団との連携協定を結んでおり、令和5年度は「地域における音楽振興」を目的として、ヴァイオリンの傑作ストラディバリウスの貸与者による青少年を主ターゲットとした独自企画公演を実施する。

・県内公立文化施設のリーダーという意識から、国や県の文化施策、コロナ禍や施設の改修といった課題に関する情報提供、助言を積極的に行っている。

○妥当性で述べたミッション・ビジョンに基づき年度の実施計画（Plan）を策定し、文化事業、管理事業、経営の実施（Do）、進捗状況の管理・調査や評価の実施（Check）、次年度に向けた改善（Action）のサイクルで組織活動を行っている。意思決定機関の幹部会をトップに、特に（check）にも重点を置き、月1回経営戦略会議を行い組織活動の検証を行っている。現場では部署を横断した「委員会」を設置（全職員がいずれかの会に参加）して諸課題（事業〈特に4館連携企画〉の企画立案、広報、安全管理）の具体的解決に向き合っている。

○今後もPDCAサイクルを強化して、組織の発展を目指していく。令和3年度に導入した「アートマネジメント・アドバイザー\*」は意見交換、視察など活発な活動を行っている。広報誌の充実により県民の注目を集め、発信力が高まったことなどの効果が出ている。

\*職員と伴走しながら助言・評価を行い、職員自らが専門性を高め、組織活動を発展させることを目的とし外部から招へいた「専門家」。①広報・宣伝・営業、②ファンドレイジング、③文化サービス、④メディア・アートなど新たな事業の開拓、⑤施設全般、⑥舞台技術の6ジャンルから成る。

以上、事業を通じて組織活動が持続的に発展すると認められる。